

平成 27 年 9 月 3 日

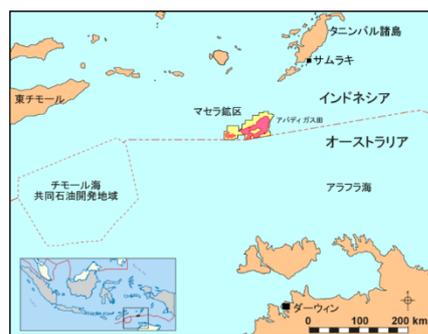
各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブマネージャー 橋高 公久
電話番号 03-5572-0233

インドネシア共和国 アバディ LNG プロジェクト (マセラ鉱区)
天然ガス埋蔵量の増大等に伴う改定開発計画の提出について

国際石油開発帝石株式会社 (以下、当社) は、子会社のインペックスマセラアラフラ海石油 (以下、同社) を通じて、インドネシア共和国アラフラ海マセラ鉱区においてアバディ LNG プロジェクト (以下、本プロジェクト) の開発準備作業をオペレーターとして実施しておりますが、この度、アバディガス田の天然ガス埋蔵量増大等を踏まえて、本プロジェクトに係る現行開発計画の改定 (以下、改定開発計画) をインドネシア政府当局へ提出いたしましたので、お知らせいたします。

改定開発計画では、液化天然ガス (LNG) 年産 750 万トン規模の処理能力を有するフローティング LNG (Floating LNG: 浮体構造に天然ガス液化・貯蔵・出荷設備を搭載した施設) を採用して、アバディガス田の開発を行います。



鉱区位置図



アバディガス田の大きさ (イメージ)

改定前の開発計画は、ガス田の段階開発を前提としており、その第一次開発として LNG 年産 250 万トンの処理能力を持ったフローティング LNG の導入を目指したもので、2010 年にインドネシア政府から承認を得ました。同計画に基づき、当社は、2012 年 11 月から 2014 年 11 月にか

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

けて、海底生産設備およびフローティング LNG の基本設計 (FEED: Front End Engineering and Design) 作業を実施してまいりました。また、2013 年 6 月から 2014 年 4 月にかけて同ガス田にて掘削した評価井 3 坑の結果からは、天然ガス埋蔵量の増加が確認され、インドネシア当局から認証を取得することができました。

さらに、これら作業と並行して実施してまいりましたガス田の全体開発シナリオの検討や、大型フローティング LNG 技術スタディ (Pre-FEED) の結果、大型フローティング LNG 施設による開発の技術的確度は十分に高まったと判断致しました。

こうした点を踏まえて、現行開発計画につき、技術、経済評価を含む総合的な見直しを行った結果、当初の段階開発に替えて、LNG 年産 750 万トン規模のフローティング LNG による開発とすることが最適であると判断し、改定開発計画をインドネシア政府当局に提出したものです。

今後は、速やかにインドネシア政府当局からの改定開発計画に対する承認取得に向けた手続きを進めてまいります。また、プロジェクトパートナーであるシェル社と共に、改定開発計画に基づく FEED 作業を開始するための準備も進めてまいります。

当社は、インドネシア政府をはじめとする同国関係者、および、その他プロジェクト関係者のみなさまのご理解とご協力を得ながら、本プロジェクトの早期生産開始を目指して、引き続き、最大限努力してまいります。

以上

「補足・関連情報」

<改定開発計画に関する補足>

- 生産能力：LNG 年産 750 万トン、コンデンセート日産約 2 万 4 千バレル
- アバディガス田の埋蔵量：LNG 年産 750 万トンを 20 年超の長期にわたり生産できる規模を見込む
- LNG 年産 750 万トン規模のフローティング LNG とする理由：
 - 増大した天然ガス埋蔵量を含めて、生産物の効率的な回収に適していること
 - アバディガス田の全体開発の検討及び、フローティング LNG の技術的進歩等により、大型フローティング LNG による開発の技術的確度が高まったこと
 - 先行するフローティング LNG プロジェクトの知見・技術を最大限発揮・活用できるようになったこと

<アバディ LNG プロジェクトの概要>

| | | |
|-------|-------------------------------|---|
| 鉱区： | インドネシア共和国 マセラ鉱区 | |
| 鉱区面積： | 約 3,221 平方キロメートル | |
| 水深： | 400 - 800 メートル | |
| 鉱区位置： | マルク州サムラキ市沖合約 150 キロメートル | |
| 権益比率： | 同社（オペレーター）： 65% シェル社： 35% | |
| 経緯： | 1998 年： | 当社鉱区権益取得 |
| | 2000 年： | アバディガス田発見 |
| | 2010 年： | アバディガス田を段階的に開発することとし、その第一次開発として年産 250 万トンのフローティング LNG 1 基による開発計画についてインドネシア政府からの承認を取得 |
| | 2012 年 11 月 - 2014 年 11 月： | 海底生産設備および年産 250 万トンのフローティング LNG の FEED 作業を実施 |
| | 2013 年 6 月 - 2014 年 4 月： | 追加評価井 3 坑からなる連続掘削作業を実施 |
| | 2014 年-2015 年： | <ul style="list-style-type: none"> ■ 追加評価井掘削の結果、インドネシア政府当局から増加した埋蔵量に関する認証を取得 ■ アバディガス田の天然ガス埋蔵量の増大および FEED 作業の結果等を踏まえ、大規模なフローティング LNG による開発が最適であるとの結論に至り、年産 750 万トン規模のフローティング LNG を採用した開発計画に改定 |